

令和四年度

卒業証書授与式 式辞

日差しが日に日に暖かさを増し、校内の木々が芽を吹いて、新たな時の到来を感じる早春の佳き日に、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに大阪府立牧野高等学校第四十五回卒業証書授与式を挙行できますことは誠に慶びに堪えませぬ。

只今、卒業証書を授与されました牧野高等学校第四十五期三百十一名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。異例づくめの三年間であつたにもかかわらず、本当によく頑張りました。保護者の皆様には新型コロナウイルス感染症が未だ収束しない中、本日、ご卒業の日を無事にお迎えになられました。嬉しきは、いかばかりかと拝察いたします。

心よりお祝い申し上げますとともに、ご入学以来、本校の教育活動にご理解とご協力、温かいご支援を賜りましたことに、感謝とお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんは、世界を大混乱に陥れた新型コロナウイルスの影響をまろに受けた学年でした。入学式はなく、休校から始まった一年生は、おそらく例がないと思います。春の遠足、体育祭、部活動は中止、春夏の甲子園とインターハイも中止となりました。

六月から学校が再開されましたが、はじめは分散登校となり、夏休みもほとんどなく、本校で勉強も学校行事も部活動も頑張ろうと思っておられた皆さんには、想定外の高校生活だったと思います。それでも、秋に牧高フェス二〇二〇を開催し、困難な環境にも負けず、創意工夫をこらし、大成功をおさめたと聞きました。

二年生になっても、コロナ禍は収まらず、体育祭は中止、文化祭は無観客を基本に、三年生の保護者に限り、自クラスの演劇のみ鑑賞していただくという形で実施したと聞いています。やがて、社会全体が感染対策をしながら、通常の社会経済活動をを行うという考えにシフトしていく中で、今年度、体育祭は三年ぶりに本校グラウンドで開催することになりました。

私はその時の皆さんの様子を非常によく覚えて
います。学校で通常の行事を通常通りにできる、
その喜びを、皆さんは全身で表していました。牧
高フエス以来二年ぶり、グラウンドでの体育祭は
初めての中、ノウハウもあまりないまま、縦割り
で構成された団をまとめしていく苦労は並大抵の
ものではなかったと思います。

しかし、体育祭ができなかった二年分の思いを、
この日に込め、競技中の応援、応援合戦でのパフ
オーマンス、どれも見事なものでした。閉会式の
時、順位など関係なく、高校生活たった一度の体
育祭をやり切った皆さんの表情を見て、自然と涙
が出てきたことを覚えています。

当時の大阪府の感染状況を踏まえ、中止という判
断もありましたが、皆さんの満足した表情をみ
て、本当にやってよかったと思いました。困難な
環境に負けず、その中でできることを考え、学校
生活を楽しもうとする姿勢を、しっかりと後輩に伝
えてくれた皆さんに改めて感謝とお礼を申し上
げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルスが流行し始めたのは今から三年前です。世界中の優秀な頭脳、叡智を結集しても、この新たなウイルスに対する有効な対策はいまだ確立できず、収束するにはいたっていません。皆さんは、これまで答えのある問いを解くことがほとんどだと思っていますが、これからは、答えがわからない課題に直面することの方が多くなります。

答えがわからない課題に直面した時、人は三種類のタイプに分かれます。一つは、課題を解決してくれる人が出てくるまでひたすら待つ人、一つは、評論家のように、なぜ課題が解決できないのかを語る人、そしてあと一つは、課題解決に向けて自ら考えて行動する人です。

皆さんには、自ら考えて行動する人になってほしいと思います。その時のベースになるのは、それまで勉強してきた知識や考え方、忍耐力や意欲などの目標に向かって頑張る力、思いやりや共感といった人と関わる力です。もちろん様々な価値観、異なる文化や慣習など、多様性が高まる中で、解決策を見つけることは容易ではありません。

しかし、コロナ禍で様々な制約がある中でも、あきらめずにできることを探し、その時点での最適解を見つけ、立派に学校生活を送ってこられた皆さんには、その力が備わっていると信じています。ぜひ、これからは、当事者意識をもって自分の頭で考え、行動して行ってほしいと思います。

最後に、これから生きていくにあたって、皆さんに意識してほしいことがあります。それは「謙虚」と「誠実」そして「感謝」の気持ちを忘れないでほしいということです。私は元々日本史の教員ですが、歴史を紐解いていきますと、科学技術は進歩したものの、人間自身は大昔から今日までほとんど進歩していないことがわかります。

戦争は、世界中の人が悪と言いながら、二千年以上もなくなることなく今も続いています。権力を持った途端、自分の力を過信し、周りが見えなくなり、足元をすくわれた為政者もたくさんいます。こうした歴史の教訓からわかることは、「謙虚」「誠実」「感謝」の気持ちをなくしてしまったこともその一因としてあるのではないかと考えています。

全ての人が、これらの気持ちをもって物事にあたっていけば、世界はもつと違ったものになっていくたかもしれません。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という諺があります。豊かに実った稲はその重みで頭が下がる、その様子から学问や技能を深めた人は、人に対して謙虚になるという意味です。

皆さんの周りで多くの人から慕われていた人はいませんか。その人を思い出してみてください。ささい。人を見下さない、人をバカにしない、人の悪口を言わない、威張らない、自分の自慢話をしない、嘘をつかない、約束を守る、自分の能力の限界を知っている、こうした特徴をもっていませんか。実は、これらは牧高生の特徴でもあります。

皆さんの中には、将来、社会や組織のリーダーとして活躍する人もいます。人間一人の力で出来ることは、たかがしれています。多くの人から慕われる人になるためにも「謙虚」「誠実」「感謝」の気持ちを忘れないでほしいと思います。

結びに、ここにいる卒業生の新たな旅だちを会場
の皆様とご一緒にお祝いし、私の式辞といたしま
す。みなさんの良き未来を祈ります。卒業おめで
とう。

令和五年三月一日

大阪府立牧野高等学校

校長 高松 智